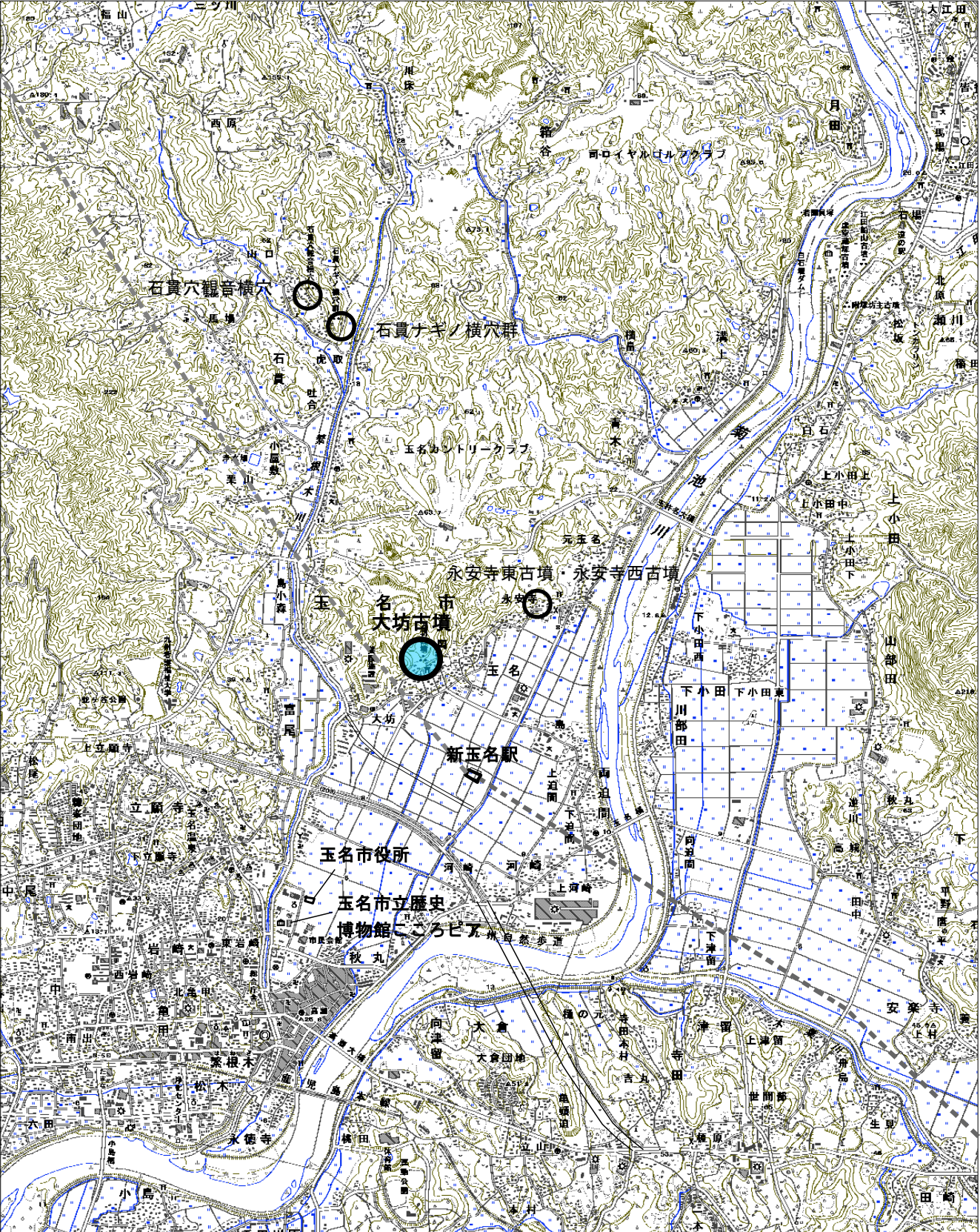


国指定史跡 だい ぼう こ ぶん
大坊古墳
 玉名市教育委員会

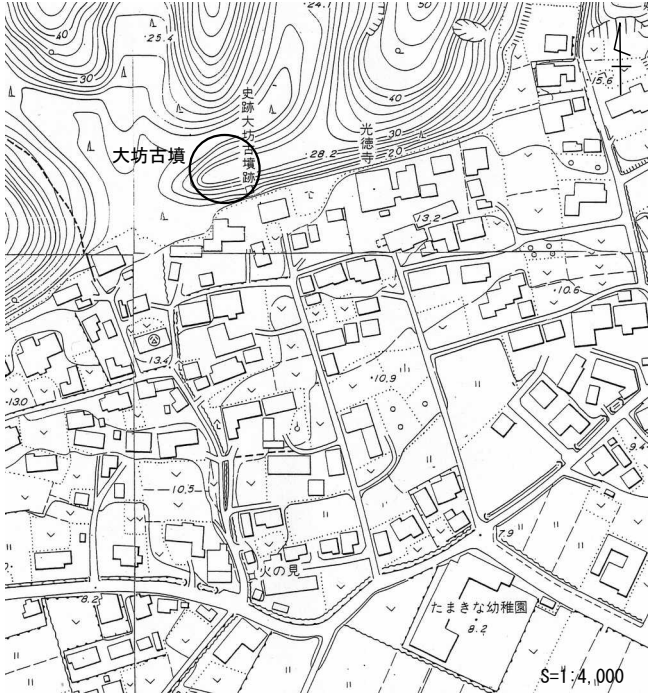


大坊古墳は、菊池川右岸の玉名平野を望む丘陵の先端に位置しており、今から約1450年（6世紀前半から中頃）に造られた古墳です。測量図などから全長40mを超える程度の方後円墳と考えられています。大坊の集落の北側丘陵裾部に大坊天満宮が位置し、その背後に古墳が築かれています。後円部には、南に開口する横穴式石室が設けられています。石室内部は、手前に前室、その奥に玄室（奥室）があり、複室と呼ばれる構造です。玄室は、平たい石を積み上げて構築されており、中に遺体を安置する石屋形が設けられています。石屋形は、板状の石を組み合わせる箱状に造られており、奥壁には、赤・黒・青（灰色）などの顔料で連続三角文、円文が描かれています。

大正6年に京都帝国大学の「肥後に於ける装飾ある古墳及び横穴」の中で報告され、昭和34年に熊本県史跡に指定されました。昭和38年には田添夏喜、田邊哲夫両氏と熊本県立玉名高校の生徒を中心とした発掘調査が実施され、石室内から土器類のほか、金製の垂飾付耳飾りや、水晶製勾玉をはじめ玉類などの装身具、鞍金具や鐙、杏葉などの馬具、直刀や鉞などの武器が出土しました。青磁碗も出土し、古くから開口していたことがわかりました。

昭和48、50年には墳丘を保護するため、コンクリート擁壁工事が行われました。昭和52年に国史跡に指定され、昭和52～54年に石室を保存するため整備工事が行われました。

出土品の一部は玉名市歴史博物館ころもピアに展示してあります。



大坊古墳周辺地形図



大坊古墳周辺略測図

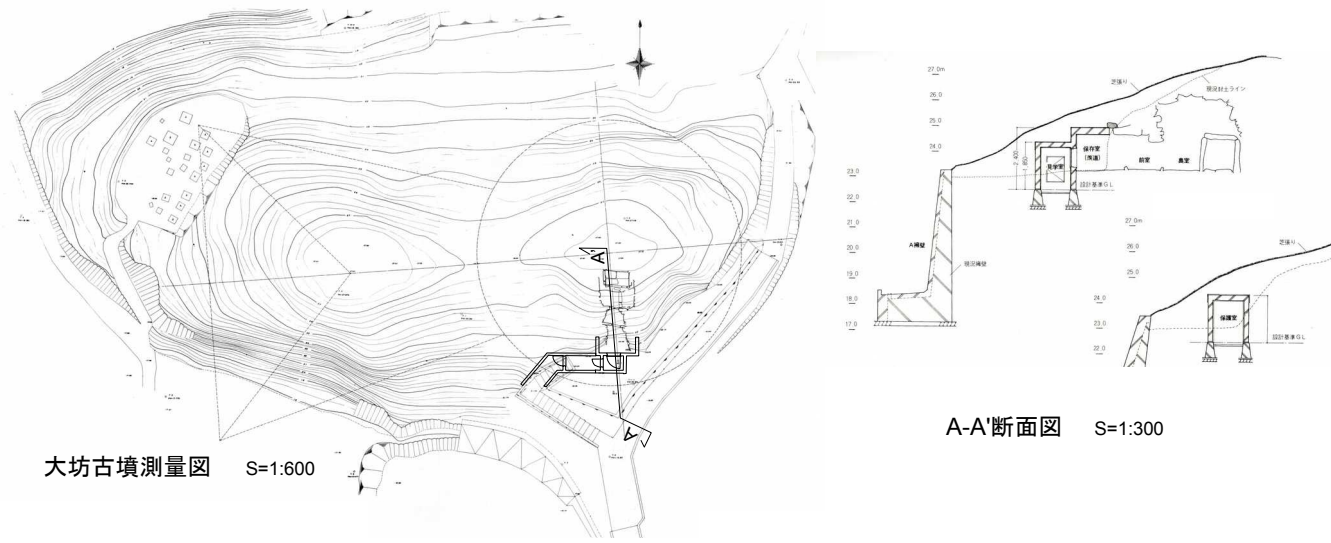


大坊古墳南側の大坊天満宮

※古墳見学上の注意
 貴重な史跡です。破損等がないよう十分注意しながら見学してください。また保護室内では、他の見学者の妨げになるような長時間の見学はご遠慮ください

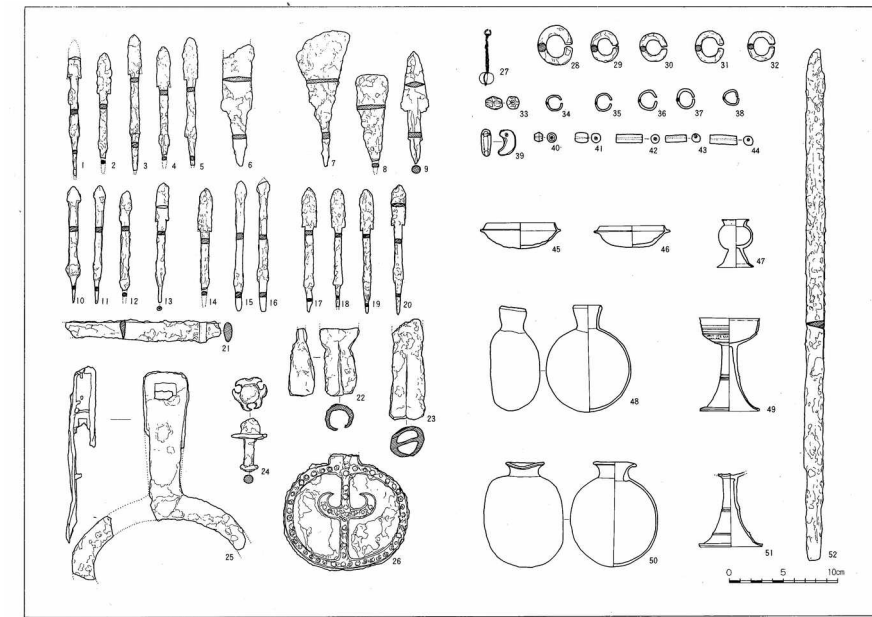
参考文献、図出典
 高木正文 1984『熊本県装飾古墳総合調査報告書』 熊本県文化財調査報告書第68集 熊本県教育委員会
 保存科学研究会東京支部編 2006『史跡大坊古墳保存工事報告書』 玉名市教育委員会

〈編集・発行〉
 玉名市教育委員会
 文化課文化財係
 熊本県玉名市岩崎163
 TEL:0968-75-1136 FAX:0968-75-1138
 玉名市HP:<http://www.city.tamana.lg.jp/>

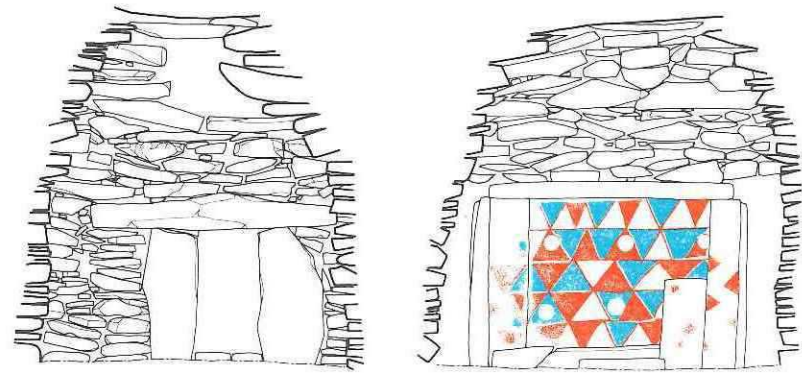


大坊古墳測量図 S=1:600

A-A'断面図 S=1:300



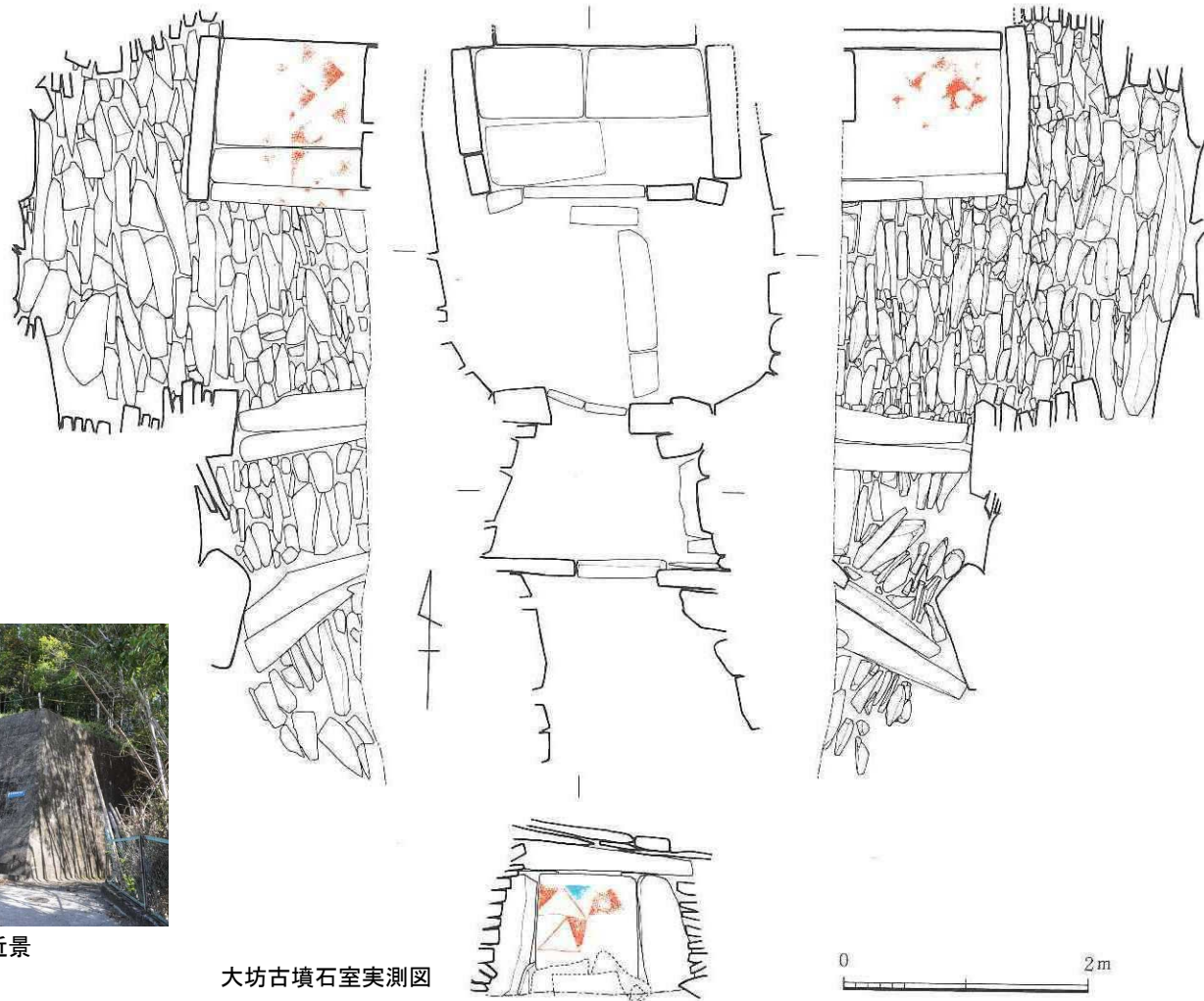
- 大坊古墳出土遺物
- 1~20 鉄族
 - 21 刀子
 - 22 鉄斧
 - 23 鉄鉞
 - 24~26 馬具
 - 27 垂飾付耳飾り
 - 28~32・34~38 耳環
 - 33~44 玉類
 - 45・46 杯
 - 48・50 提瓶
 - 49・51 高杯
 - 52 直刀



大坊古墳奥室石屋形



大坊古墳石屋形奥壁の装飾



大坊古墳石室実測図

0 2m



大坊古墳保護施設入口



大坊古墳石室見学窓



大坊古墳近景



昭和50年頃の大坊古墳石室



昭和50年頃の大坊古墳